

平成 27 年サワラ春漁の漁況予報

平成 27 年 4 月 3 日
香川県水産試験場

1. 香川県のさわら流しさし網（春漁）による漁獲状況

漁獲量の推移を図 1 に示します。平成 22 年以降増加傾向にあり、26 年は、サワラ 569.2 トン、サゴシ 19.1 トンの計 588.3 トンとなり、近年で最も多くなりました。

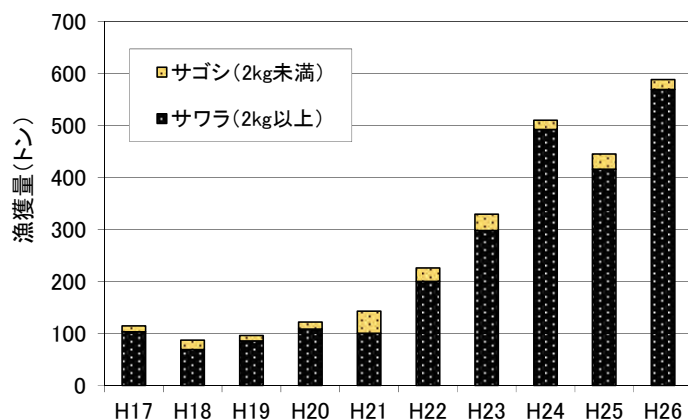


図 1 香川県のさわら流しさし網（春漁）による漁獲量の推移
漁獲成績報告、主要漁協漁獲量報告に基づき、香川県が集計。

2. 平成 26 年に稚魚はどの程度発生して育っているか（0 歳魚資源尾数の推定）

各年の 0 歳魚資源尾数については、独立行政法人水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所が各府県のデータを収集解析して推定しています。現在、平成 25 年発生群まで示されていますが、26 年発生群については香川県で得たデータから推定する必要があります。

そこで、瀬戸内海区水産研究所が示した尾数と相関が高い香川県のデータとして、播磨灘の大型定置網で漁獲されるキソゴ（0 歳魚）の漁獲量を用い、回帰直線により推定しました。結果は図 2 のとおりで、平成 26 年発生 0 歳魚資源尾数を 1,100 千尾としました。

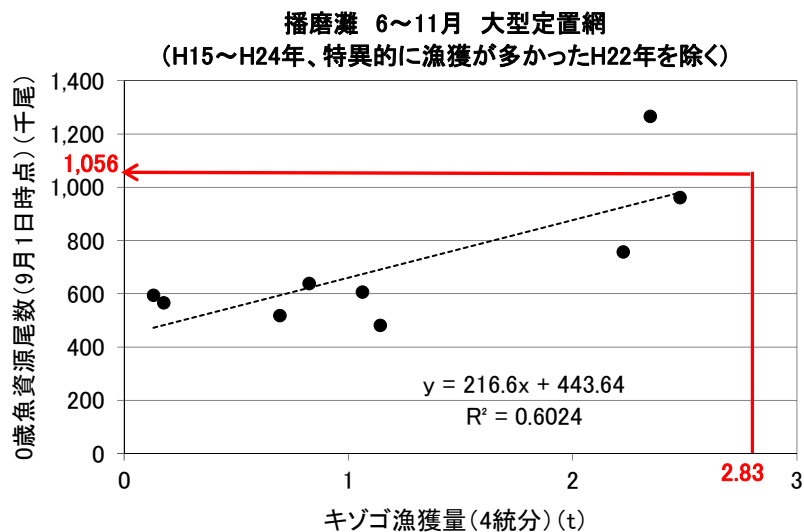


図 2 平成 26 年発生 0 歳魚資源尾数の推定

3. 平成 27 年春漁の漁況予測

0 歳魚資源尾数と平成 25～27 年春漁との関係を図 3 に示します。

春漁において漁獲尾数が多い年齢は、2 歳と 3 歳のいずれか、または両方であるので、0 歳魚資源尾数の多寡は、2 年後、3 年後の漁獲に反映されます。

平成 26 年春漁では、24 年発生群が 2 歳魚としてたいへん多く漁獲され、豊漁の要因となりました。

【平成 27 年春漁の漁況】

3 歳魚：平成 26 年春漁で漁獲尾数がたいへん多かった群（24 年発生群）であるので、漁獲尾数が多いと思われます。

2 歳魚：平成 25 年発生群であり、0 歳時の推定資源尾数は多いが、1 歳時（26 年春漁のサゴシ）の漁獲尾数が少なかったことを重視すると、漁獲尾数は少なめになる可能性があります。

1 歳魚：平成 26 年発生群であり、0 歳時の推定資源尾数は多めであるので、漁獲尾数が多いと思われます。

このように、平成 27 年春漁は、25 年春漁と状況がよく似ています。サワラ（2 歳以上）は 2 歳魚より 3 歳魚の尾数が多めになり、漁獲重量は 26 年より減少し、25 年と同程度になると予測されます。サゴシ（1 歳）の漁獲重量は、26 年より増加するものの 25 年よりは少ないと予測されます。両者を合わせた漁獲重量は、26 年より減少し、25 年と同程度になると予測されます。

サイズは、3 歳魚が 4kg 程度、2 歳魚が 3kg 程度、1 歳魚が 1kg 程度と推定されます。

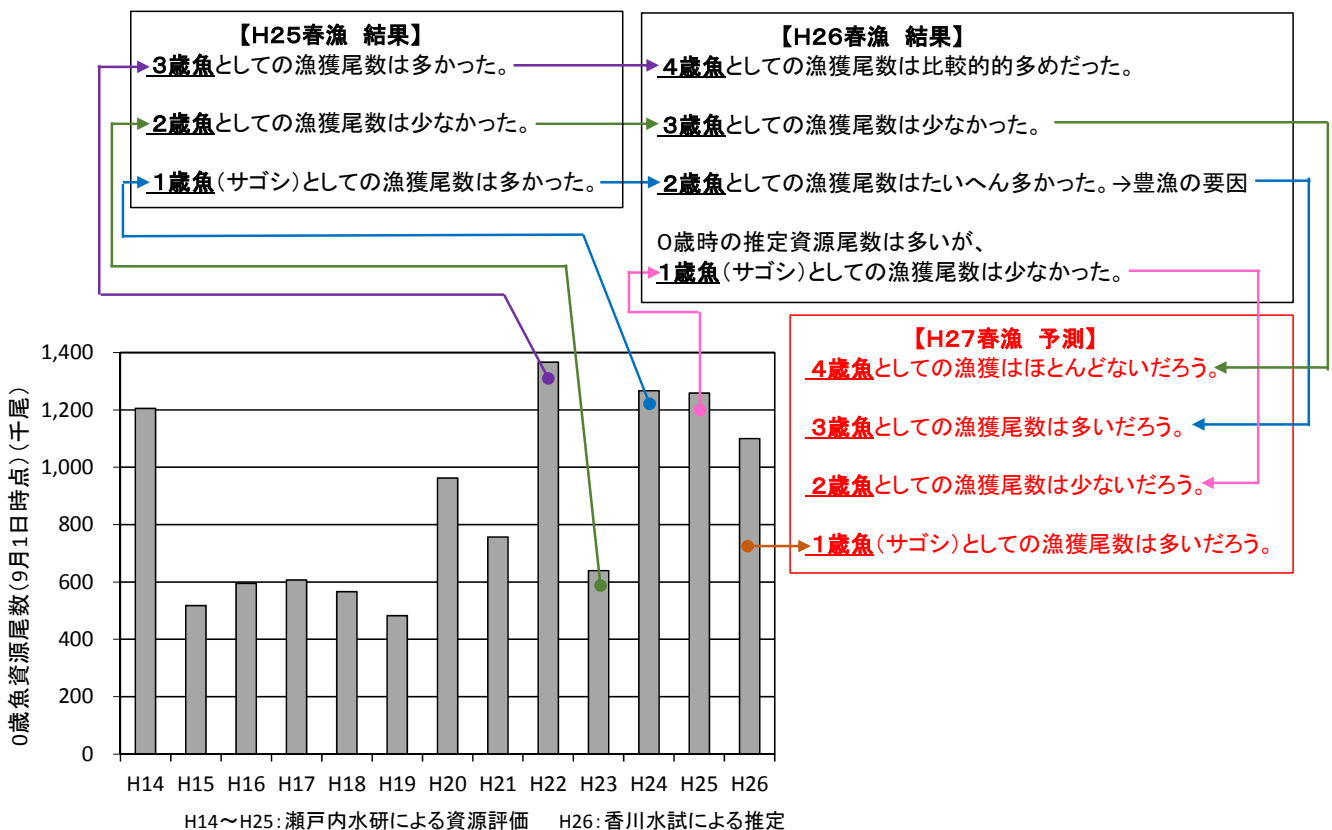


図 3 0 歳魚資源尾数と平成 25～27 年春漁との関係

瀬戸内海区水産研究所によるサワラ瀬戸内海系群の資源評価では、水準は低位、動向は増加となっています。本格的な資源回復の指標として、より高齢化、小型化、晩熟化が提示されており、特に若齢魚に対して現状以上の漁獲規制を実施・継続し、資源量をより増加させることが必要であるとの見解が出されています。現状の資源管理の取組みを緩めることなく、今後とも継続することが必要です。